

# 柴崎富士塚遺跡 3

—店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2023

高崎市教育委員会  
群馬トヨペット株式会社  
株式会社 飯塚組



## 例 言

1. 本書は店舗建設工事に伴う「柴崎富士塚遺跡3」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市柴崎町字東原723-1、字富士塚870-1、871、872、878-2に所在している。
3. 本調査及び整理作業は、事業主の群馬トヨペット株式会社・高崎市教育委員会・株式会社飯塚組による三者協定を締結し、高崎市教育委員会監理のもと実施した。
4. 発掘調査及び整理作業及び報告書刊行に至るまでの経費は、事業主に負担していただいた。
5. 発掘調査は、藤田 登（株式会社飯塚組）が担当し、光波測量（平面・断面測量）は井上測量株式会社が行った。調査面積は720㎡である。
6. 発掘調査と整理作業は、令和5年1月19日から令和5年7月31日までの期間で実施した。
7. 本遺跡は高崎市教育委員会遺跡番号の「862」である。
8. 本書の執筆は、Iを高崎市教育委員会、IIからVと総体編集は藤田が行った。
9. 本書に関わる資料は高崎市教育委員会が保管している。
10. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。  
【発掘調査】青木 進 青木洋子 石倉 誠 金塚 寛 高橋 準 角田宇三郎 藤井常夫  
水出礼子 森田隆昭 吉田俊宏 桜田正人 内田昭男  
【整理作業】青木洋子 藤田明美 水出礼子 茂木真菜
11. 発掘調査の実施及び報告書の刊行にあたっては、下記の関係機関・諸氏にご協力を賜った事に対し、記して感謝の意を表します（敬称略・順不同）。  
櫻井和哉 株式会社測研 井上測量株式会社 有限会社田村建材 群馬トヨペット株式会社  
高崎市教育委員会

## 凡 例

1. 挿図中の北方位は座標北を、断面図の水準値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 各遺構の略称は、竪穴建物跡：SI、土坑：SK、溝：SDとし、番号は発掘調査時に付したものを使用した。
3. 挿図には、高崎市発行1/2,500『高崎市都市計画基本図』、国土地理院発行1/25,000『前橋』・『高崎』・『伊勢崎』の一部を引用し加筆した。
4. 基本層序の火山噴出物の呼称は以下の略号を用いる。  
As-A：浅間A軽石（天明3年：1783降下）  
As-B：浅間B軽石（嘉承3・天仁元年：1108降下）  
Hr-FA：榛名二ツ岳渋川テフラ（6世紀初頭）  
As-C：浅間C軽石（3世紀後半降下）
5. 基本土層、遺構、土器等の色調観察は、『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2007年版）による。
6. 全体図（遺構分布図）、個別遺構図の縮尺は1/60、1/40とし挿図中にスケールを付した。遺物実測図の縮尺は1/3とし、挿図中にスケールを付した。
7. 計測表や観察表における計測値は、残存値を（ ）、推定値を[ ]で記した。

# 目 次

例 言・凡 例

目 次・図版目次・表目次・写真図版目次

I	調査に至る経緯	1
II	地理的環境と歴史的背景	3
	1. 地理的環境	3
	2. 歴史的背景	3
III	調査の方法・経過・基本層序	3
	1. 調査の方法	3
	2. 調査の経過	7
	3. 基本層序	7
IV	調査の結果	10
	1. 遺跡の概要	10
	2. 検出された遺構と遺物	10
V	ま と め	18

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

奥付

## 図版目次

第1図	調査区位置図	1	第10図	遺構個別図(1)	14
第2図	遺跡周辺の地形	2	第11図	遺構個別図(2)	15
第3図	調査区概略図	4	第12図	畦畔軸の方位	16
第4図	周辺の遺跡	5	第13図	出土遺物実測図	17
第5図	長野堰幹線水路	8	第14図	第六大区小五区上野国群馬郡中柴崎村 絵図面(明治5~6年)	19
第6図	基本層序	9	第15図	進雄神社と遺跡間の推定道路と周辺の 浅間B軽石下水田	20
第7図	基本層序	11			
第8図	基本層序	12			
第9図	遺構全体図	13			

## 表目次

第1表	周辺の遺跡名一覧	6	第2表	遺物観察表	21
-----	----------	---	-----	-------	----

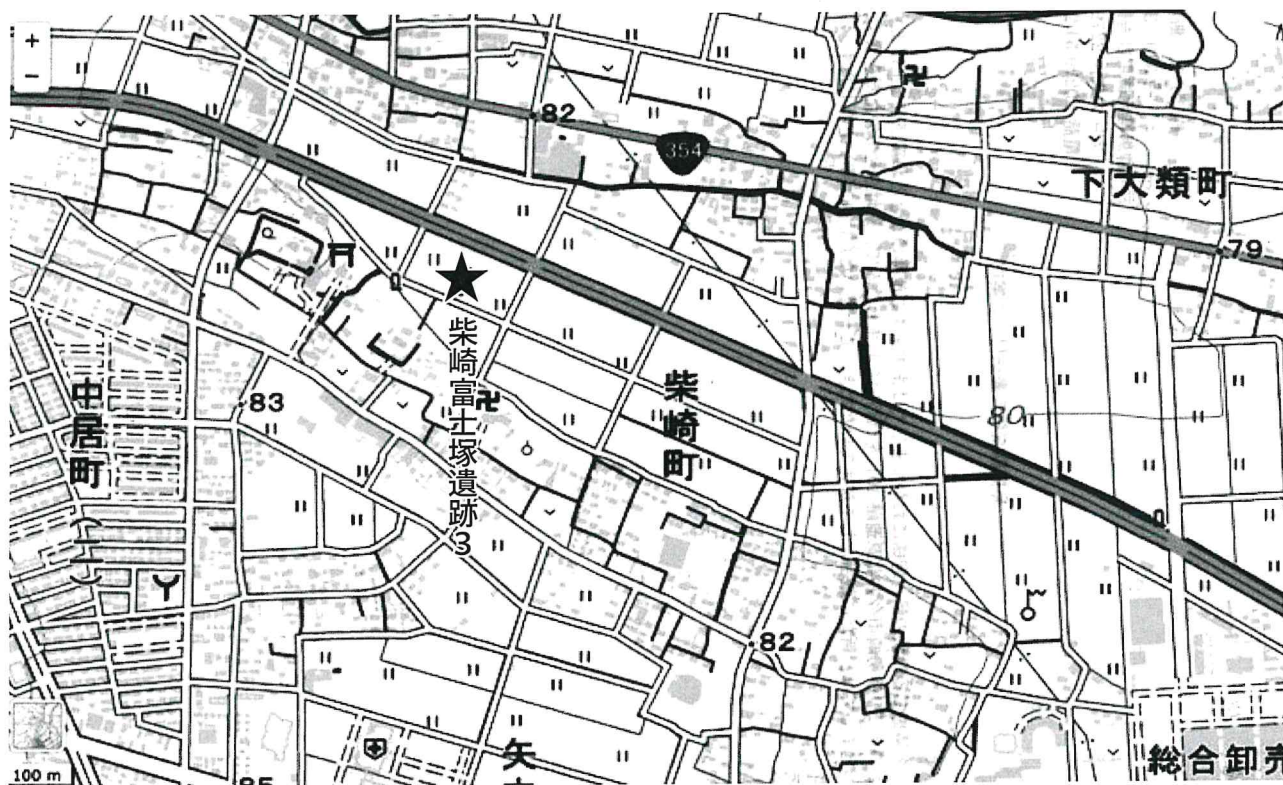
## 写真図版目次

PL.1	調査区遠景(東方上空から) 調査区遠景(南方上空から)		PL.5	SD4断面(東から) SD2・耕作痕検出状況(西方から) SD4・SD5検出状況(東から) 道路状遺構検出作業(東方から) 写真撮影準備作業(清掃作業) 畦畔検出状況(東南から) 耕作痕検出状況(西方から) 道路状遺構全体写真(東方から)	
PL.2	調査区遠景(北方上空から) 調査区遠景(西方上空から)		PL.6	SK1全体写真(東南から) 調査区遠景1(中央部上空から) 調査区西壁断面(北から) 調査区遠景2(東方上空から) 調査区西壁断面(東方から) 調査区遠景3(北方上空から) 出土遺物	
PL.3	環境整備(除草作業) 調査区盛土掘削1 調査区設定(光波測量) 調査区盛土掘削2 遺構検出作業1 遺構確認作業1 遺構検出作業2 遺構確認作業2				
PL.4	畦畔検出状況(東から) SD2断面(東から) 畦畔検出作業(東から) 畦畔検出状況(東南から) SK1断面(南から) 道路状遺構検出状況(東から) SD1断面(南から) SD5断面(東から)				



# I 調査に至る経緯

平成30年7月、高崎工業団地造成組合（以下、高工団と略）より高崎市総合地方卸売市場の周辺にて産業団地造成に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。周辺は集落跡やAs-B下水田跡などの遺跡が分布する地域であり、周知の埋蔵文化財包蔵地も存在するため、埋蔵文化財取扱の協議が必要であると伝えた。平成31年4月、産業団地用地内の道路整備等に伴う発掘調査事業を開始するとともに、事業地内の試掘・確認調査も行い、遺構が検出された範囲については周知の埋蔵文化財包蔵地を拡大する手続きを行った。令和4年10月27日、事業者である群馬トヨペット株式会社から、この産業団地において店舗建設工事の計画があると高工団を通じて市教委に連絡があった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である33C01遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝え、事業主と保存協議を行った。該当地では確認調査の結果、As-B一次堆積層が認められ、その下位に水田と推定される旧地表面が確認されていたが、建物工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。文化財保護法第93条第1項の届出は令和4年11月1日に提出され、同年11月6日に発掘調査が必要であるとの通知を行った。なお、遺跡名については「柴崎富士塚遺跡第3次発掘調査」とした。発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和4年12月19日に事業者：群馬トヨペット株式会社・民間調査機関：株式会社飯塚組・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。



第1図 調査区位置図



第2図 遺跡周辺の地形  
(国土地理院地図：1979～1983)



## II 地理的環境と歴史的背景

### 1. 地理的環境

柴崎富士塚遺跡3は、高崎台地の南端部に位置しており、西南を流下する烏川と北東側を流下する井野川に挟まれた微高地帯（井野川下流域右岸上位段丘上に形成された、北西から南東に延びる帯状の微高地）の中央部に分布する「柴崎遺跡群」に含まれている。当該地は、両河川に挟まれた地域一帯を指す「高崎台地」上である。地形的には井野川右岸に広がる低地帯で、東南方向へ緩い傾斜を示す。標高は82～83mである。

本調査区周辺は広範囲にわたり水田開発が行われて来た地域だが、近年は廃田化地域における産業団地造成という開発行為が進んでいる。当該地の表土層はその後の土地の入れ替えによる碎石混入の客土が厚く堆積している。しかし、その下層位にはAs-B火山灰に被覆された水田遺構が広がっている。

### 2. 歴史的背景

高崎台地の本遺跡周辺においてはこれまで多くの調査が行われ、As-B・As-C・Hr-F等の火山灰噴出物下の水田遺構や畑遺構の調査事例が山積している。特にAs-B下の水田遺構は群を抜いて多く、「条里制遺構」の調査事例が報告されていることは、当該地周辺の遺跡分布状況からも明確である（第4図）。たとえば大八木水田遺跡（1979田島他）に始まり、日高遺跡（1980～1982）、本調査区周辺では、宿大類遺跡群（1983～1987）、矢中遺跡群（1981～1988）、柴崎遺跡群（1984～1993）等があり、宿大類・矢中・柴崎遺跡群では明確な水田区画が検出され、古代の統制された土地地割の景観が明らかとなっている。従来の自然の土地利用型ではなく、区画整備された水田耕作に趣をみせる。そして統制的に開墾された田畑には実践的な水利施設が必要不可欠となってくる。高崎台地のほぼ平坦な微高地に分布する柴崎遺跡群等は、河川から直接取水することは困難な立地条件下にある。当該地の区域一帯では、榛名湖から流下する烏川中流域で取水した灌漑用幹線水路「長野堰」が存在する（第5図）。柴崎地区は、北側に地獄堰用水と南側の矢中堰に挟まれており米・麦・養蚕を生業とした農産業を天職としてきた地域である。

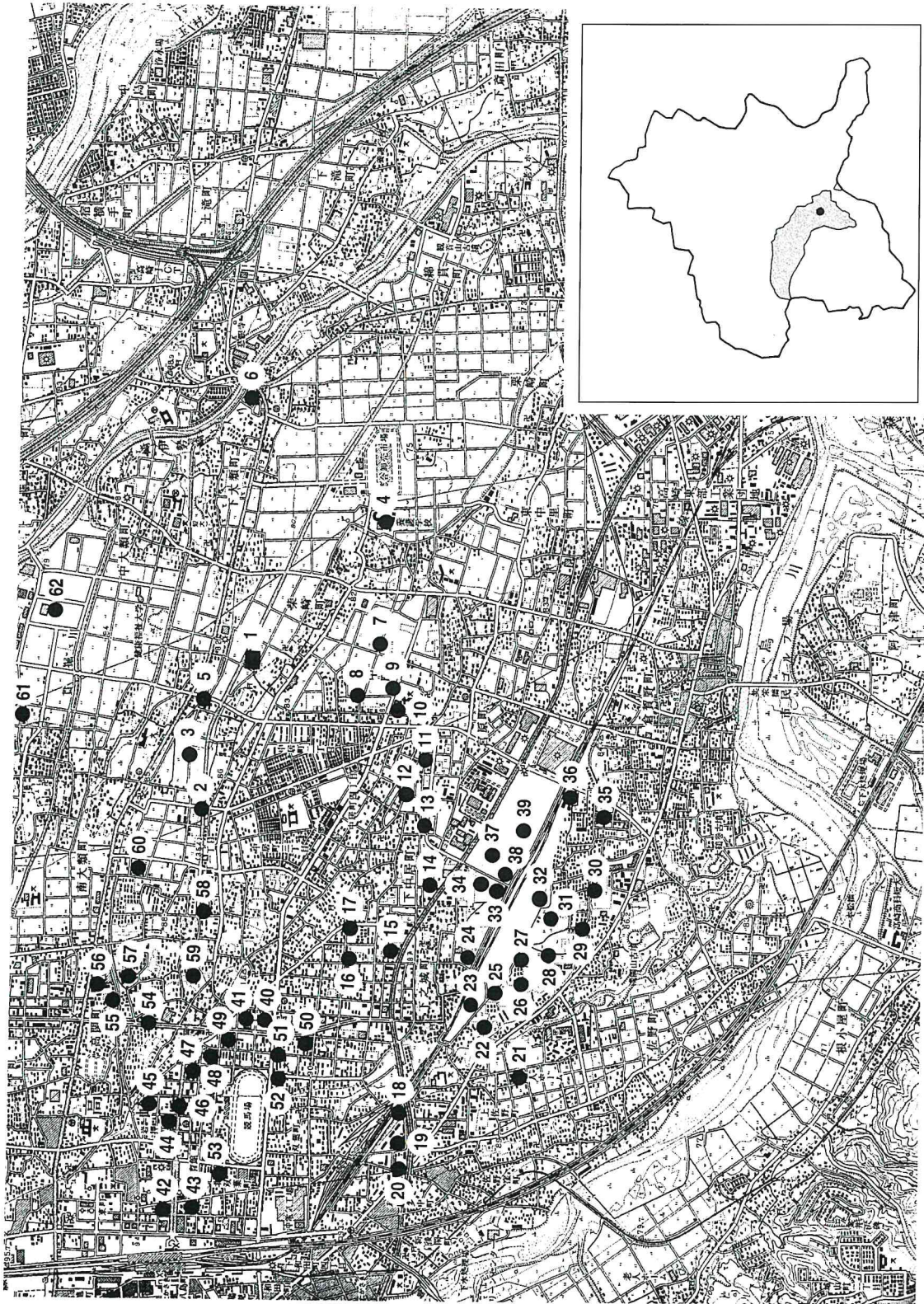
高崎台地では下層のAs-C火山灰噴出物降下以前においても水田遺構が発見されている。その調査結果では、当初の丘陵地集落地帯の生活域から、人々の増加と共に低い平地へと進出した地域でも、広く開墾が進められ整った状況の水田耕作が定着していたことがわかる。つまり、弥生時代終末から古墳時代には水田遺構・畑・水路等の大規模な生産域が成立していたことが明らかとなっている。「群馬県古墳総覧」（2017群馬県教育委員会）によると柴崎地区では20か所以上、大類地区では30か所以上の古墳が記録されており、当時の有力者によって統制された土地利用の開発が進んでいたことが窺える。

## III 調査の方法・経過・基本層序

### 1. 調査の方法

本遺跡の発掘調査は、開発事業の敷地内にある調査区の設定に始まる。踏査により敷地の境界杭（第3図）の確認を実施し、光波測量を凝視して調査区の起点杭を置き調査区の設定を実施。なお対象地は背の高い雑草地帯であったため事前に除草作業を行っている。本調査は、過去の柴崎遺跡群（I～V）や試掘調査の成果を踏まえてAs-B火山灰噴出物下の水田遺構検出を目的とした。対象地一帯は旧水田耕作地となって





第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡名一覧

No.	遺跡名	機関名	主な時代	No.	遺跡名	機関名	主な時代
1	柴崎富士塚遺跡3 (2023)	調査会	奈良・平安	32	下之城村前遺跡7 (2013)	市教委	奈良・平安
2	柴崎遺跡群・南大類遺跡群 (1993)	市教委	奈良・平安	33	下之城村東遺跡2 (1984)	調査会	奈良・平安
3	柴崎遺跡群(IV) (1987)	市教委	奈良・平安	34	下之城村東遺跡 (1984)	調査会	奈良・平安
4	柴崎熊野前遺跡 (1998)	群埋文	奈良・平安	35	倉賀野条理II遺跡 (2001)	市教委	奈良・平安
5	西浦・吹手西遺跡 (1991)	市教委	奈良・平安	36	倉賀野条理VI遺跡 (1999)	市教委	奈良・平安
6	下大類蟹沢遺跡 (1993)	市教委	奈良・平安	37	宮原遺跡 (2016)	市教委	奈良・平安
7	矢中村東A遺跡 (1984)	市教委	奈良・平安	38	宮原遺跡2 (2016)	市教委	奈良・平安
8	矢中村北A遺跡 (1983)	市教委	奈良・平安	39	宮原遺跡3 (2019)	市教委	奈良・平安
9	矢中村北D遺跡 (2001)	市教委	奈良・平安	40	上中居荒神遺跡5 (2018)	調査会	奈良・平安
10	矢中宝晶寺裏遺跡 (1983)	市教委	奈良・平安	41	上中居西屋敷III遺跡 (1998)	調査会	奈良・平安
11	矢中村西I遺跡 (1996)	調査会	奈良・平安	42	栄町II遺跡 (1999)	調査会	奈良・平安
12	下中居条理III遺跡 (2003)	市教委	奈良・平安	43	栄町III遺跡 (2003)	調査会	奈良・平安
13	下中居条理遺跡 (1996)	市教委	奈良・平安	44	岩押町I遺跡 (1994)	調査会	奈良・平安
14	下之城・村東遺跡3 (2009)	市教委	奈良・平安	45	岩押町II遺跡 (1996)	調査会	奈良・平安
15	下之城村北II遺跡 (1992)	市教委	奈良・平安	46	岩押町III遺跡 (2011)	群埋文	奈良・平安
16	上中居島薬師遺跡 (1997)	調査会	奈良・平安	47	上中居平塚3遺跡 (2010)	市教委	奈良・平安
17	下中居天神裏遺跡1・2 (2012)	市教委	奈良・平安	48	上中居平塚1遺跡 (1997)	調査会	奈良・平安
18	双葉町I遺跡 (1996)	調査会	奈良・平安	49	上中居西屋敷遺跡 (1994)	調査会	奈良・平安
19	上佐野樋越遺跡 (2002)	群埋文	奈良・平安	50	上中居荒神I遺跡 (1997)	調査会	奈良・平安
20	和田多中遺跡 (1989)	市教委	奈良・平安	51	上中居荒神II遺跡 (1998)	市教委	奈良・平安
21	下佐野観音塚遺跡 (1987)	市教委	奈良・平安	52	上中居荒神遺跡3 (2013)	市教委	奈良・平安
22	下之城仲沖遺跡3 (2013)	市教委	奈良・平安	53	北双葉町遺跡 (2011)	市教委	奈良・平安
23	下之城仲沖遺跡4 (2014)	市教委	奈良・平安	54	高関村前・村前II・東沖遺跡 (1995)	市教委	奈良・平安
24	下之城村前II遺跡 (1996)	調査会	奈良・平安	55	高関東沖III遺跡 (2008)	市教委	奈良・平安
25	下之城仲沖遺跡 (2004)	市教委	奈良・平安	56	高関東沖II遺跡 (1996)	調査会	奈良・平安
26	下之城仲沖II遺跡 (2005)	市教委	奈良・平安	57	岡久保遺跡 (1988)	市教委	奈良・平安
27	下之城村前V遺跡 (2003)	市教委	奈良・平安	58	中居町一丁目遺跡 (2010)	群埋文	奈良・平安
28	下之城村前IV遺跡 (2002)	市教委	奈良・平安	59	中居遺跡群 (2009)	市教委	奈良・平安
29	下之城村前遺跡 (1992)	市教委	奈良・平安	60	南大類柳原沖遺跡 (2000)	調査会	奈良・平安
30	倉賀野下新堀遺跡 (2008)	市教委	奈良・平安	61	宿大類遺跡群 (1983)	市教委	奈良・平安
31	下之城村前III遺跡 (2001)	市教委	奈良・平安	62	高崎情報団地I (1997)	調査会	奈良・平安

おり造成工事時の土地の入れ替えがあり、約30～40cm厚の造成土が二重にあるため、地表面から約60～80cmまでを重機により掘削し、As-B 軽石上面より人力による掘削で水田遺構確認面を検出した。水田畦畔の検出は隆起帯が微高のため、ジョレンと移植ゴテを併用して水田面の検出作業を行った。水田面の耕作痕・足跡・農具等と思われる無数の凹凸面の検出は移植ゴテや竹ベラを用いた。調査区の西壁沿いと北壁沿いに幅50cmのトレンチ掘削を行い、軽石噴出物堆積状況、水田畦畔の断面確認等を行った。写真撮影は、35mmカラー・モノクロフィルムカメラとデジタルカメラを使用し、各遺構の個別写真（土層断面含）、全体写真撮影を行った。調査区全体及び各遺構の全体はドローンにより空中写真撮影を行った。測量は光波測量により、基準点・水準点の設置及び各遺構の平面図・断面図・遺構全体図等の作成を行った。遺構全体図、断面図は縮尺1/20・1/40・1/60とした。

## 2. 調査の経過

発掘調査は、令和5年1月19日～2月28日に実施した。

### 発掘調査準備

- 1月16日～18日：調査区及び周辺的环境整備（除草作業・安全ロープ・看板等の設置）。  
基準点、水準点の設置。発掘資材運搬。

### 発掘調査

- 1月19日～24日：重機による表土（造成土）掘削。
- 1月20日：As-B 火山灰噴出物除去、遺構確認面の精査及び確認。
- 1月24日～2月3日：遺構掘削（水田畦畔、耕作痕、溝等）。  
水田遺構（畦畔・耕作痕）、溝、土坑検出。  
調査区内写真清掃→全体写真撮影（地上、空撮）。
- 2月3日～4日：光波測量→遺構全体図（平面）、遺構個別図（平面・断面）。
- 2月6日：各遺構個別写真撮影→水田面下層の確認トレンチ掘削。
- 2月9日～15日：北壁・西壁断面写真及び測量、発掘資材撤収。
- 2月17日～28日：調査終了確認。→現地戻り→残務処理。

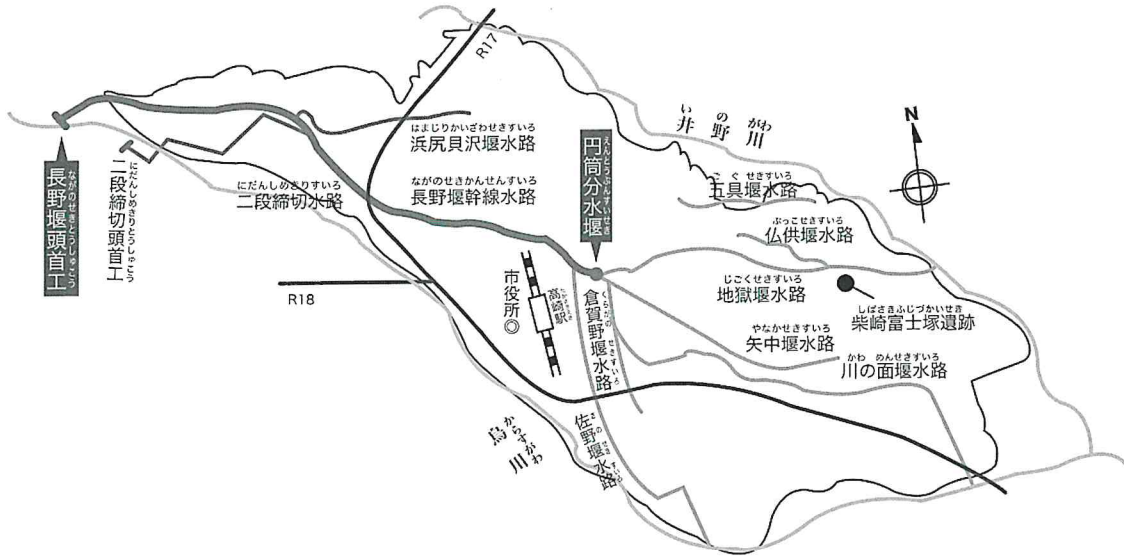
整理作業は、令和5年3月1日～7月31日に実施した。

### 整理作業

- 3月～4月 基礎整理1：遺物の洗浄及び注記。遺物実測、拓本作成。
- 5月 基礎整理2：挿図版作成（遺構・遺物実測図・写真図版等）。
- 6月 報告書作成：本文原稿執筆。
- 7月 報告書印刷：原稿一式入稿。校正・印刷・刊行。

## 3. 基本層序

本調査区の基本層序は、調査区北壁により土層確認を行いI～VI層に分層した（第6図）。I層（表土）は産業団地造成事業による造成土（砂礫を多く含む）。II層は淡灰色で粘性のシルト層である。近現代の水田耕作土と思われる。ややしまりあり。III層は黒褐色土でAs-Bの軽石粒が混入する。上層の水分浸透による鉄分沈下が認められる。若干粘性あり。IV層は淡褐色軽石層（As-B 一次堆積層）で3～4cm大の軽石と砂粒状の軽石が薄く堆積する。V層は黒色粘質土でこの上面が水田遺構等の検出面となる。V層下位は鉄分沈下により淡赤褐色に変色している。VI層は黒色のシルト層である。黄褐色粒や灰白色粒（As-C か Hr-FA の可能性あり）が微量混入するが粘性あり、ややしまりある。今回の調査において記録した基本層序は、試掘調査の成果（第7・8図）を基に現地確認し上記の分層を行った。



第5図 長野堰幹線水路  
 (天保7年「群馬の古地図第2集」より加筆)



## IV 調査の結果

### 1. 遺跡の概要

第3次発掘調査では、As-B 下の水田に関わる遺構、道路状遺構、土坑、溝遺構が検出された。調査区は長軸南北方向、短軸東西方向の細長い範囲である。北側には近接して地獄堰が東西に流れている。水田面の旧地形は、調査区の南東隅が緩い傾斜を示しているが、全体的にほぼ平坦である。水田遺構は調査区の北側寄り（現国道354線側）に位置している。他に土坑1基、溝遺構5条（SD1～5）を検出した。これらはAs-B 軽石降下後の所産である。SD1～3は細く浅い溝で開口部幅約30cm、深さ約25cmを計る。SD4,5は並行しており軸方向が東西に走行している。これは道路状遺構として検出した。土坑は調査区北隅に1基検出した（第9図）。

### 2. 検出された遺構と遺物

#### As-B 下の水田に関わる遺構（第10図）

畦畔は微高の隆起帯で底辺幅は約70cm、最頂部の高さは約5cmを計る。しかしその全容は計り知れず、水田面に残る無数の凹凸面が低い畦畔で包囲されている状況が確認できる。凹凸面の凹みは平面形がほぼ円形か不整円形を呈している。ただその形状から稲カブの痕跡か人や他の動物の足跡等の識別は明確に捉えられなかった。検出した畦畔の区画はその全容が確認できないが、「柴崎遺跡群（I～V）」の調査事例では、東西に長い1区画10～15mが基本形とある。また水利施設では大型水路、分水遺構等の発見が報告されている。本調査では水口・水路等の水利施設は確認できなかったが当区域の利水系統は「長野堰」による灌漑区域に属している（第5図）。畦畔軸は真北軸にあてると若干西側へ傾く（第12図）。

#### As-B 火山灰降下後の遺構（第11図）

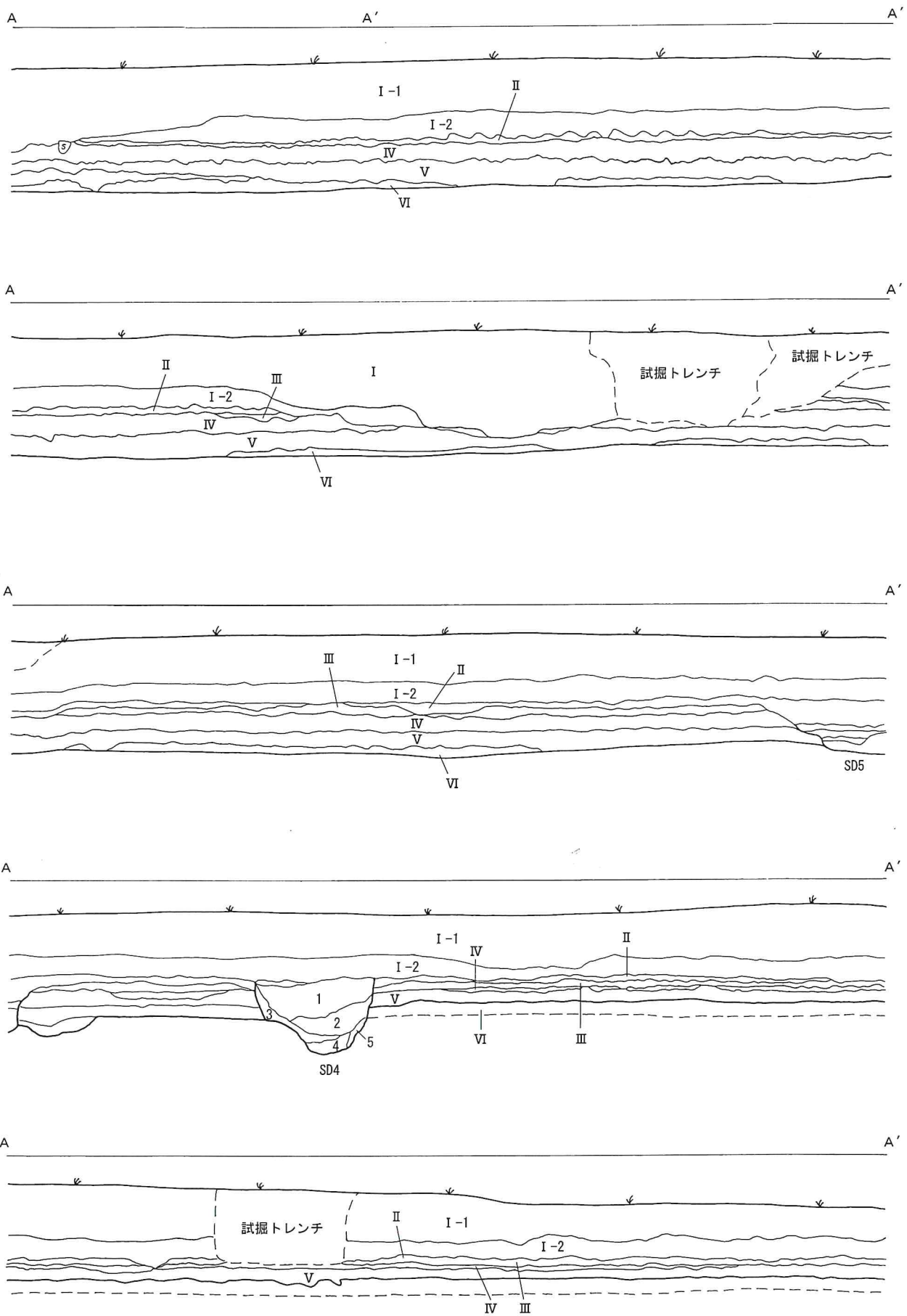
道路状遺構 北側の側溝はSD4、南側の側溝はSD5である。この遺構は2条の溝（側溝）が直線的に並行して東西方向に走行する（第11図）。北側の側溝（SD4）は、開口部最大幅約110cm、深さ約70cmを計る。南側の側溝（SD5）は、開口部最大幅約110cm、深さ約70cmを計る。側溝の断面形状は不整の逆台形かU字状を呈している。底面は中央線上に凹凸列がある。両側溝間の平坦部は顕著な硬化面は確認されなかった。道路幅は約4m～5mである。走行方向は磁北の東西軸に符合する。これは北側に分布する畦畔軸の東西軸とも一致する。覆土は自然堆積で全体的にシルト質である。厚く堆積する1層は上層の浸透による影響で鉄分のブロックや流れ込みのAs-B 小ブロックが混入しておりややしまっている。覆土上端はII層直下で、掘り込み面はII層上面である。遺物は覆土上面より流れ込み遺物が数点出土した。SD4では染付碗等の近世陶器破片、金属製品等の破片が出土しており、SD5では近世陶器、金属製品等が散発的に出土した（第13図）。

その他の溝 北側にSD1・SD2、中央域にSD3が検出された。SD1・SD3の走行方向はほぼ南北を示しており水田の畦畔軸方向と一致する。また、調査区中央域では水田面の凹凸現象が広がっているが、顕著な畦畔は検出できなかった。この地域では水田面の凹凸とは違うタイプの耕作痕が混在する。2個一対の凹みが列点状に長く延びており、明瞭なものでは延長15m～20m延である。この列点状の耕作痕は水田畦畔や溝遺構（SD1・SD3）の軸方向と一致する。これは畑面も重複している可能性がある。

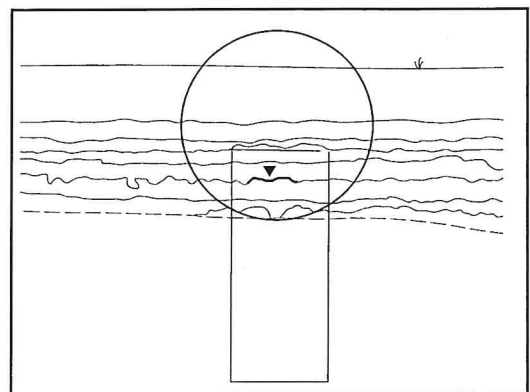
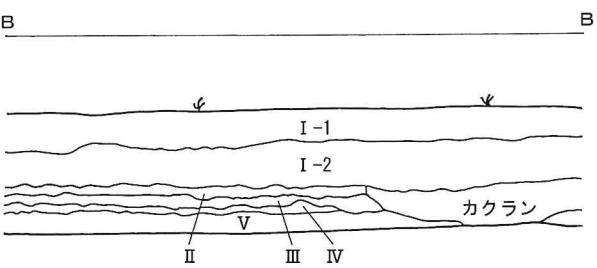
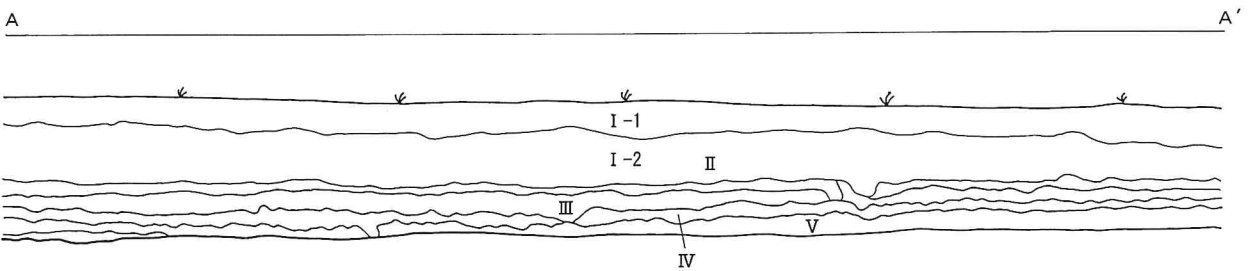
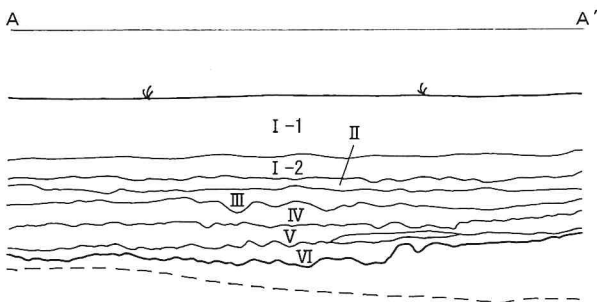
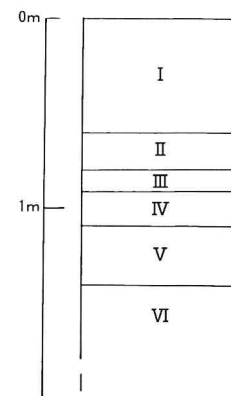
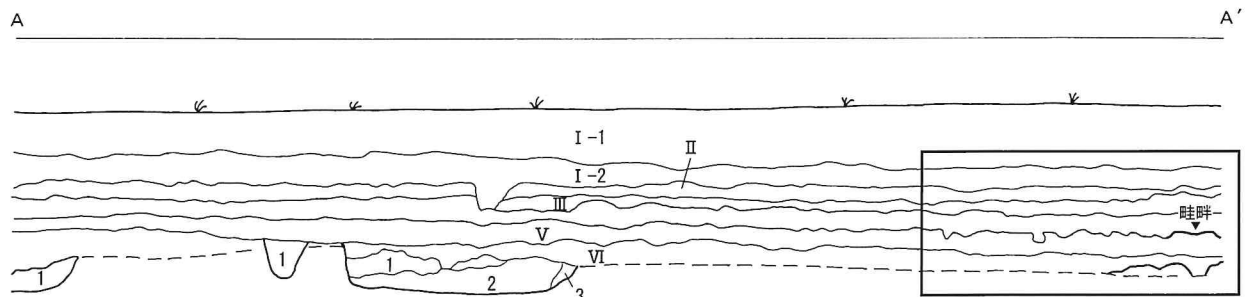
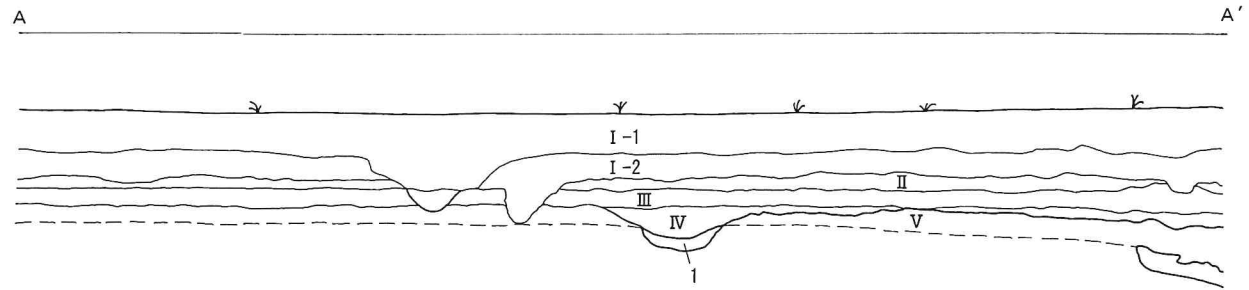
#### 土坑（第10図）

SK1は重複関係がなく単独遺構である。調査区の北隅に位置している。平面形は楕円形である。長軸方向は南北方向で長径約2m短径約1.5m、深さは最深部で50cmである。覆土はII層のブロックと土坑の掘上土のブロックとの混合土で、人為的な埋戻しと思われる堆積状況である。遺物は検出されなかった。



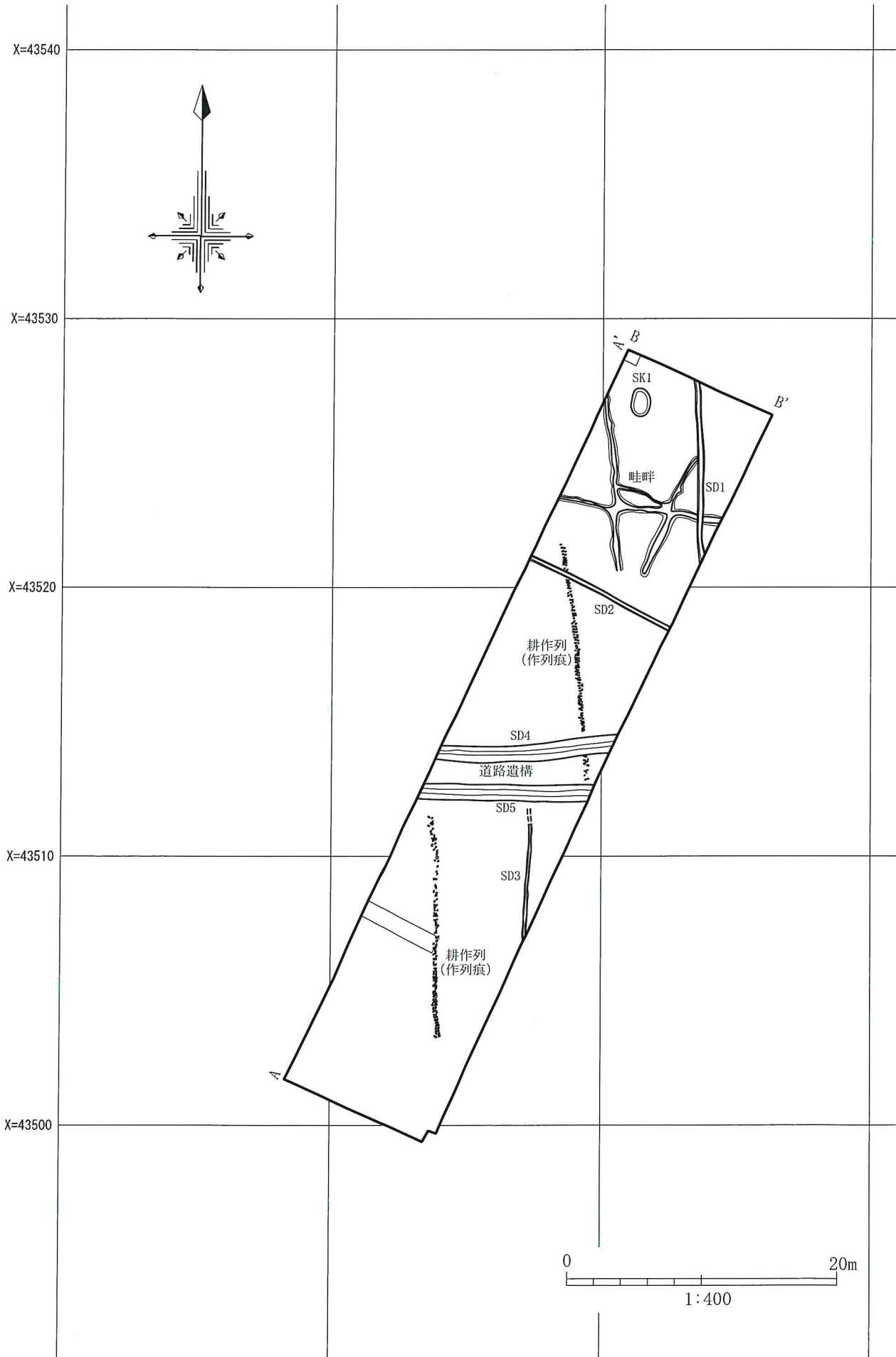


第7図 基本層序

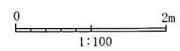
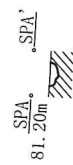
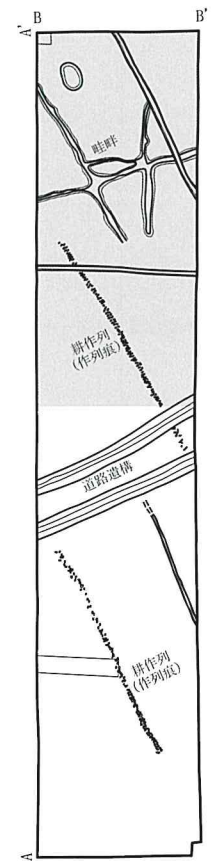
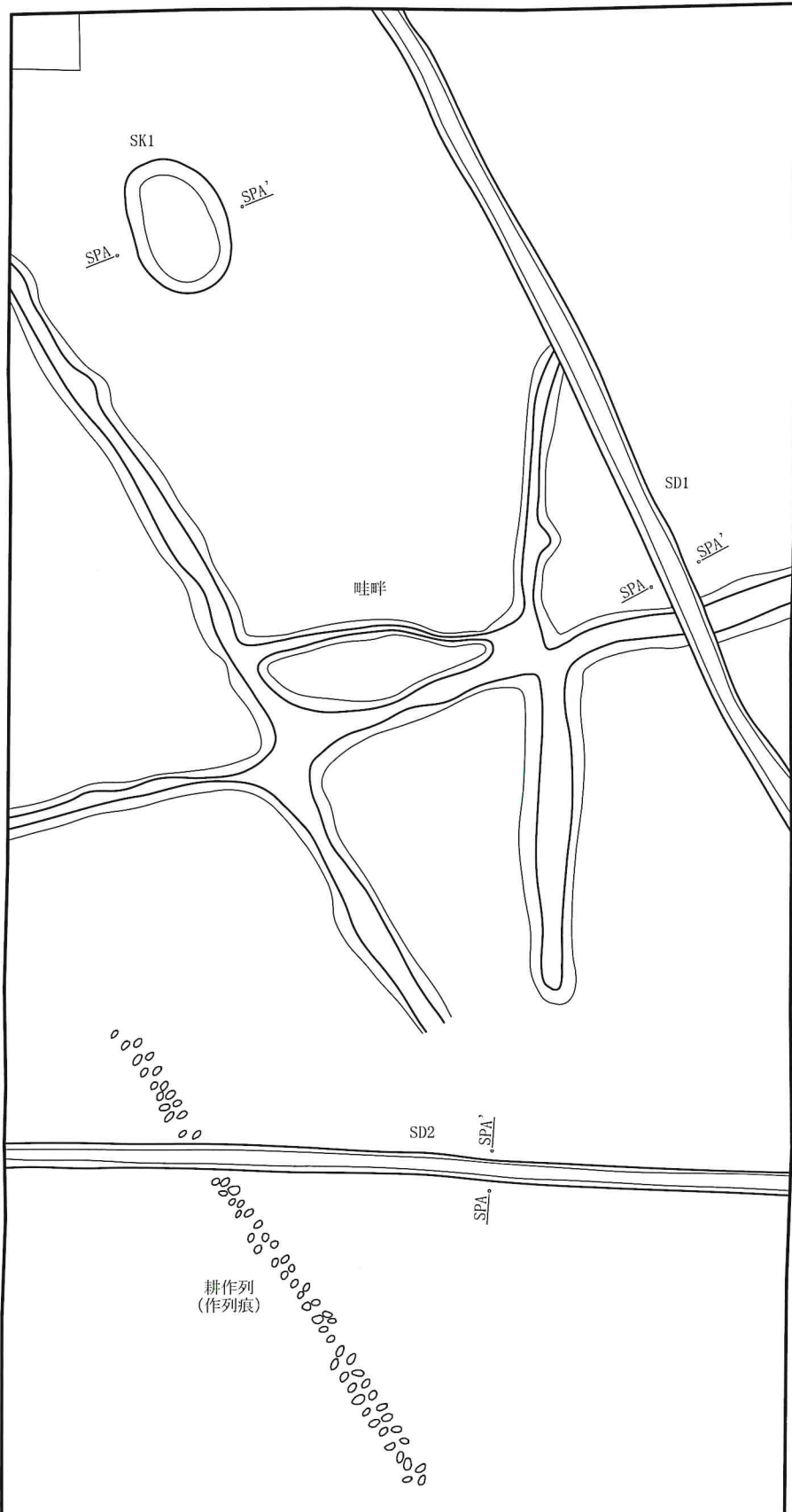
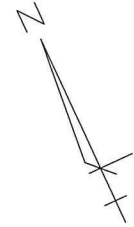
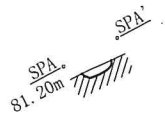
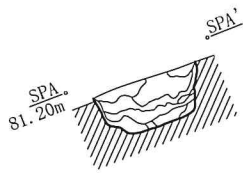


畦畔拡大図

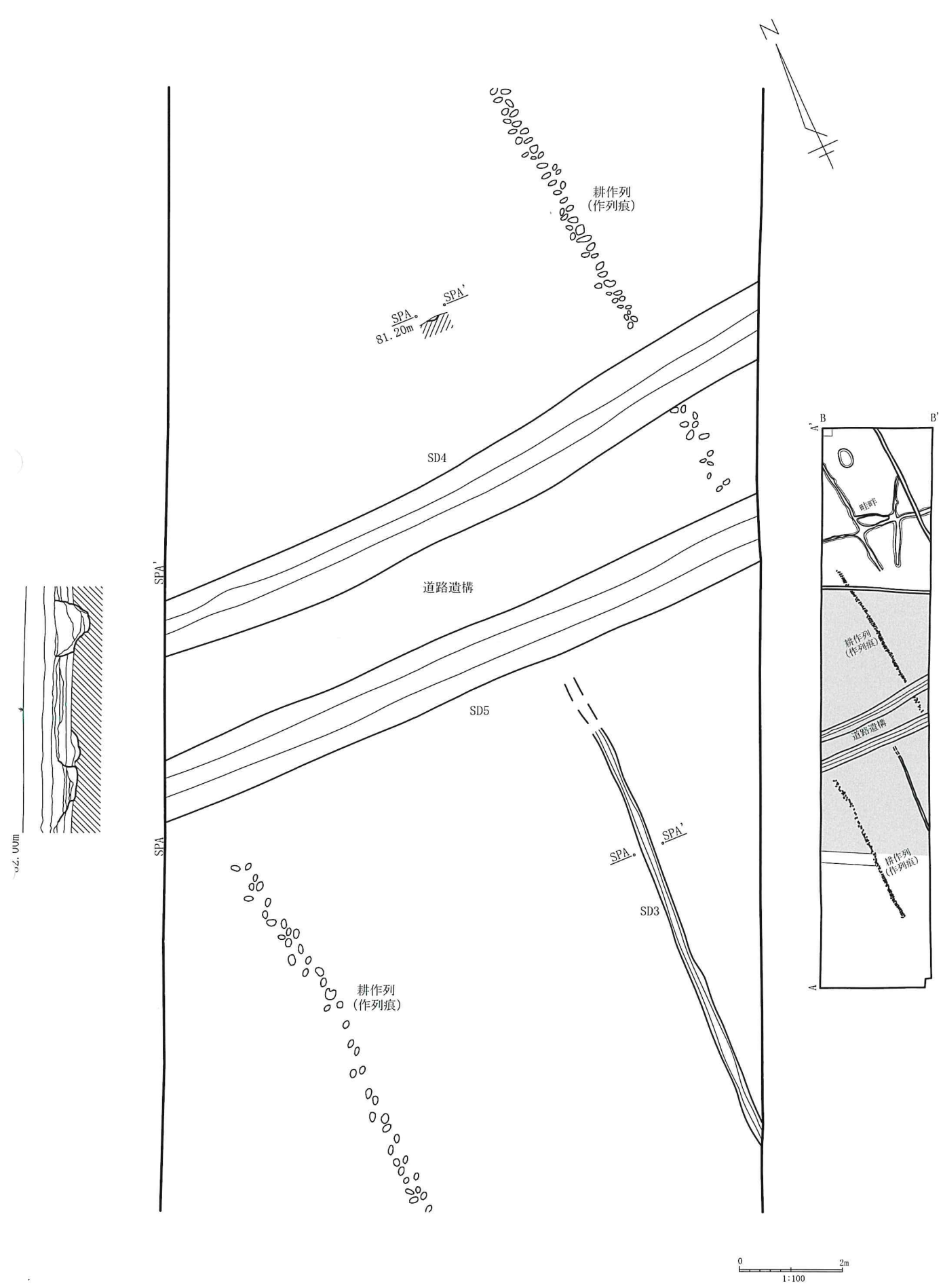
第8図 基本層序



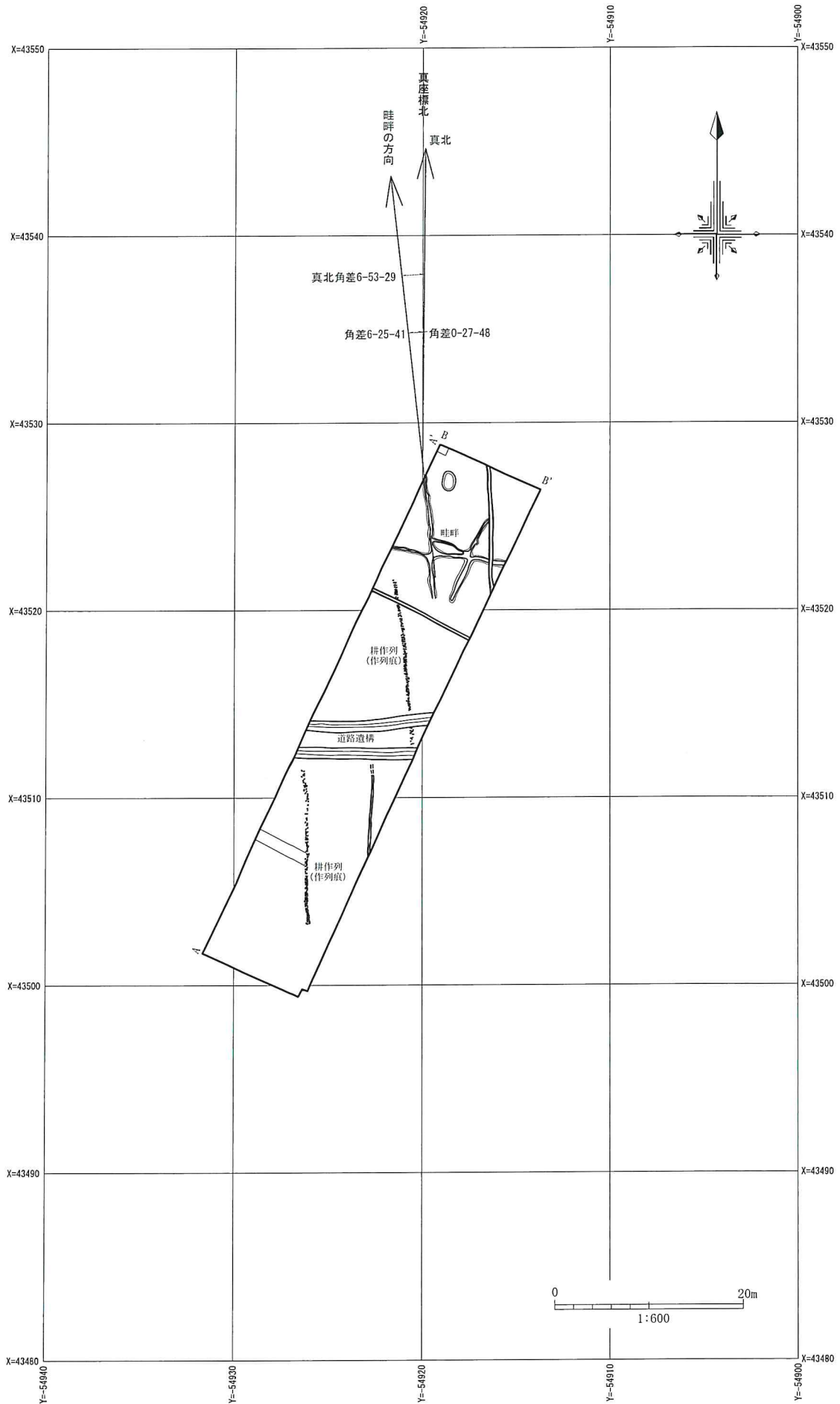
第9図 遺構全体図



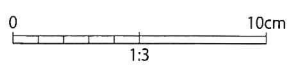
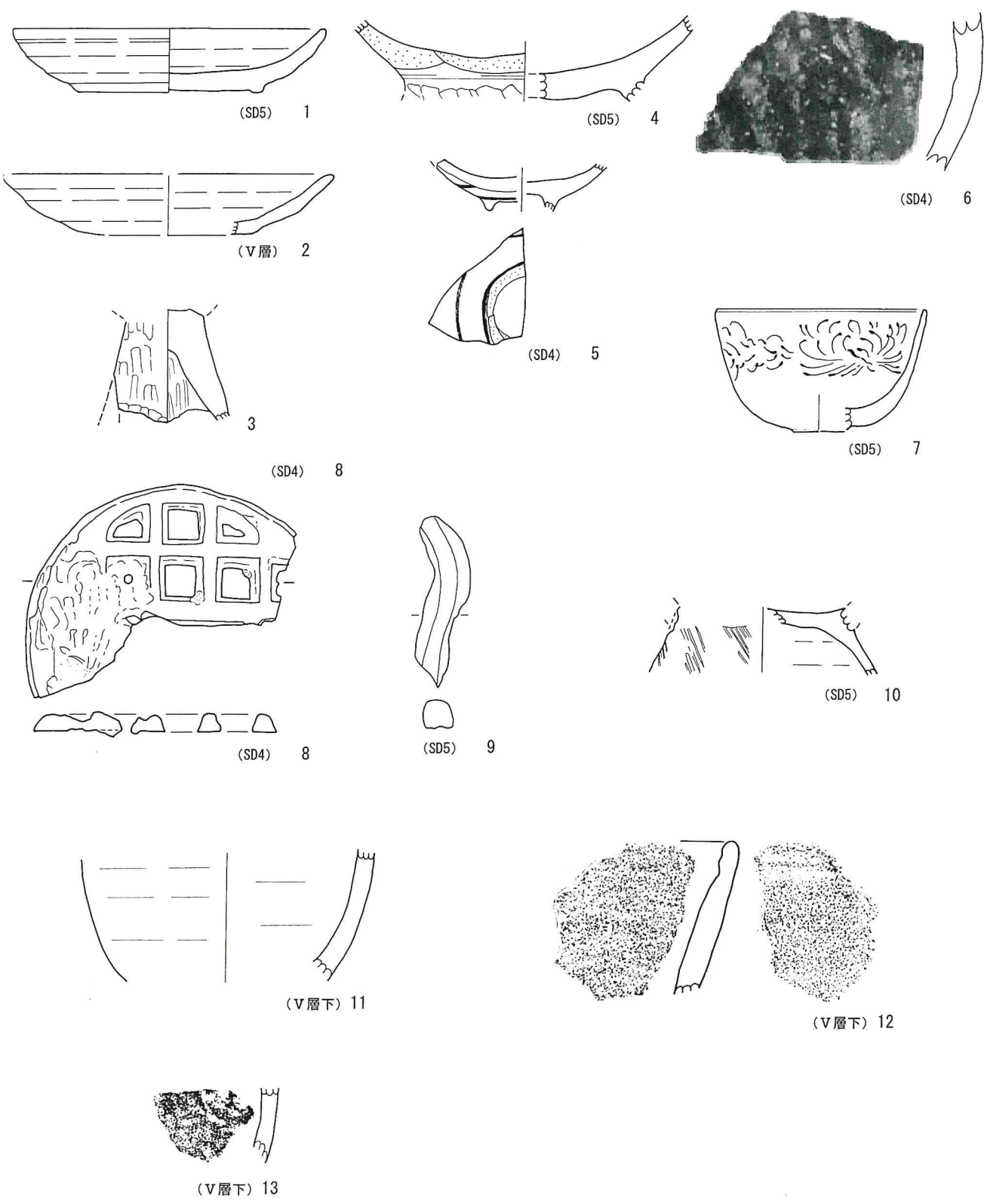
第10図 遺構個別図 (1)



第11図 遺構個別図 (2)



第12図 畦畔軸の方位



第13図 出土遺物実測図

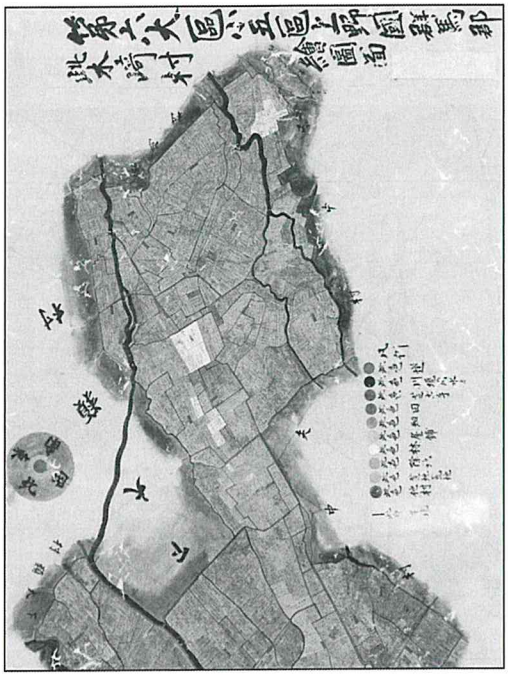
## V ま と め

**水田遺構** 高崎市の東部地区は土地改良・区画整理事業の進出に伴う発掘調査により、広域的な水田開発（特にAs-B下の水田）の様相が明らかにされてきた。そのB下水田・畑地さらに利水施設等は条里地割との関連性も高く計画的な耕作開発が成り立っていたことが窺える。そして今現在も進められている開発行為と共に回を重ねている発掘調査の成果によって、その分布状況がさらに広がりを増してきた。古代において実施された「条里地割」に基づいた耕地開拓は、広域な生産域における統制された土地利用の中で拡大化した耕地の景観が想像できる。本調査区を含む柴崎遺跡群、その北側に分布する宿大類遺跡群さらに南側に分布する矢中遺跡群では、大畦畔や水利施設、道路状遺構等の分布範囲が明らかにされてきた。そしてそれぞれの水田遺跡で検出された地割の坪同士の交点が検出されたことで、この地区一帯の生産域における計画的な条里制水田を造成していたことがわかる。こうした大規模な条里水田に必要な不可欠な利水施設も大がかりな構築が行われていたことも明らかになっている。柴崎遺跡群、矢中遺跡群の発掘調査では大型水路・水溜状遺構が検出され、利便性の高い給排水施設も検出されている。当該地区は古くから幹線水路（灌漑用水）「長野堰用水」が設置されている（第5図）。当該地域の地形的利便性を生かした取水は、「地獄堰水路」・「矢中堰水路」などの支流から効率的な配水が行われていたと思われる。本調査区における水田遺構（B下水田）の付設遺構は検出されなかった。ただ、水田廃棄後に構築されたと思われる細い溝（SD1・SD3）はほぼ南北方向に走行するもので、後の水田耕作か畑地耕作時の水路の可能性が考えられる。近年では前橋台地南側の「南部拠点地区遺跡群」（2022：茂木）の発掘調査で大がかりなAs-B下の水田地帯が検出されている（南部No.12）。この調査結果により「東西に4町分、南北に2町分、合計8町分の水田区画」が報告されている。その中で昭和40年代の都市計画図にAs-B下の水田検出状況を重ねた図がある。それによると東西南北軸を基調とした古代条里型区画と現地表の水田地帯の方向軸が全体的に類似している。

**道路状遺構** 本調査で検出した道路状遺構は2条1対のSD4とSD5によるものである。構築面の断面観察からAs-B軽石火山灰堆積層の上位（II層）からである。つまり構築時期は近世以降の所産と考えられる。

その走行方向は東西方向である。その西方約200m先には「<sup>すきのお</sup>進雄神社」（869年創建）がある。明治初期（明治5～6年）の古地図「第六大区小五区上野国群馬郡中柴崎村絵図面（第14図）」を見ると、当時の境内は「天王の森」といわれた広大な神域は森林であったようだ（神社境内にある説明版より）。その区画内に熊野社と記されており、現進雄神社を指しているものと思われる。さらに7～8区画東側に離れた所に屋敷が並びその中に、「光明寺」と記した文字があり、現存する光明寺の位置にほぼ一致する。その区画北側に神社へ向かう1条の道が東西方向に走行している。本調査の道路状遺構は古地図にある道に符合する可能性がある（第15図）。





第14図 第六大区小五区上野国群馬郡柴崎村繪圖面 (明治5~6年)  
 (群馬県立文書館蔵より転写し加筆)



第2表 遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③胎土 ④残存	成形(整形)技法の特徴	備考
1	近世陶器 (皿) 瀬戸美濃	口径 (11.0) 底径 (6.5) 器高 2.2	①堅緻 ②浅黄色/浅黄色 ③粘土質 ④1/2	外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ	SD 5
2	土師器 (坏)	口径 (11.5) 底径 (5.5) 器高 2.2	①酸化 ②淡赤褐色/淡赤褐色 ③雲母 石英 白色・黒色粒 ④口縁部	外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ	V層
3	土師器 (脚台)	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化 ②赤褐色/赤褐色 ③雲母 石英 白色・黒色粒 ④1/3	外面 ヘラタテナデ 内面 ヘラタテナデ	表土
4	近世陶器 (碗)	口径 — 底径 — 器高 —	①堅緻 ②浅黄色/浅黄色 ③粘土質 ④底部	外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ	SD 5
5	近世陶器 (染付碗)	口径 — 底径 — 器高 —	①堅緻 ②浅青色/浅青色 ③磁器質 ④底部	外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ	SD 4
6	近世陶器 (甕)	口径 — 底径 — 器高 —	①堅緻 ②にぶい緑灰色/鉄袖 ③粘土質 ④胴部	外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ	SD 4
7	近世陶器 (椀)	口径 (7.5) 底径 (1.7) 器高 4.5	①堅緻 ②淡緑灰色/淡緑灰色 ③磁器質 ④1/2	外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ	SD 5
8	金属製品 (五徳?)	口径 — 底径 — 器高 —	①— ②— ③— ④1/2	外面 — 内面 —	SD 4
9	金属製品 (角材)	口径 — 底径 — 器高 —	①— ②— ③— ④—	外面 — 内面 —	SD 5
10	須恵器 (甕)	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化 ②明赤褐色/明赤褐色 ③石英 白色・黒色粒 ④底部	外面 ヘラナデ 内面 ナデ	SD 5 クシ目 S字口縁
11	土師器 (碗)	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化 ②明灰褐色/明灰褐色 ③雲母 石英 白色・黒色粒 ④胴部	外面 ヘラヨコナデ 内面 ヘラヨコナデ	V層下面
12	縄文 (深鉢)	口径 — 底径 — 器高 —	①粗い ②暗褐色/暗褐色 ③石英 水晶・長石 ④口縁部	外面 縄文擦り消し 内面 ヨコナデ	V層下面
13	土師器	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化 ②赤褐色/赤褐色 ③雲母 石英 黒色粒 ④胴部	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ	V層下面

## 引用・参考文献

- 櫻井和哉 2018 「上中居荒神遺跡5」高崎市教育委員会  
小林悠一 2015 「関東条理の研究」関東条理研究会  
廣津英一 1998 「柴崎熊野前遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団  
関 晴彦 2011 「柴崎熊野前遺跡II」群馬県埋蔵文化財調査事業団  
群馬県 1991 「群馬県史」群馬県史編纂委員会  
金子智一 他 2018 「江木東前沖遺跡」高崎市教育委員会  
常深 尚 2019 「飯塚胤屋敷遺跡」有限会社毛野考古学研究所  
板垣 宏 2019 「中大類新井西遺跡」高崎市教育委員会  
山田誠司 他 2019 「宮原町遺跡3」高崎市教育委員会  
茂木佑輔 2022 「南部拠点地区遺跡群No.12」技研コンサル株式会社  
高崎市 2000 「新編 高崎市史 資料編2 原始古代II付録」  
高崎市 2003 「高崎市史 通史編1. 原始古代」高崎市史編纂委員会  
和久拓照 他 2014 「宿大類村西遺跡2」有限会社毛野考古学研究所  
折原 覚 他 2009 「上中居遺跡群」高崎市教育委員会

明治5～6年「第六大区小五区上野国群馬郡中柴崎村絵図面」

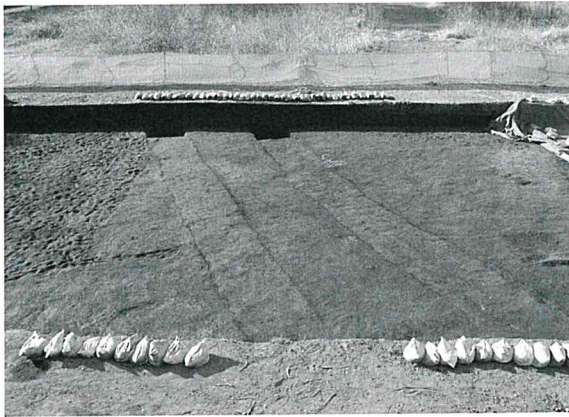
寛延2年天保7年「群馬の古地図第2集」群馬県文化事業振興会



SD4 断面 (東から)



SD2・耕作痕検出状況 (西方から)



SD4・SD5 検出状況 (東から)



道路状遺構検出作業 (東方から)



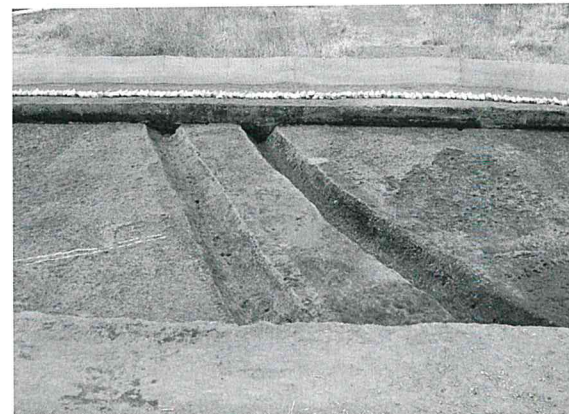
写真撮影準備作業 (清掃作業)



畦畔検出状況 (東南から)



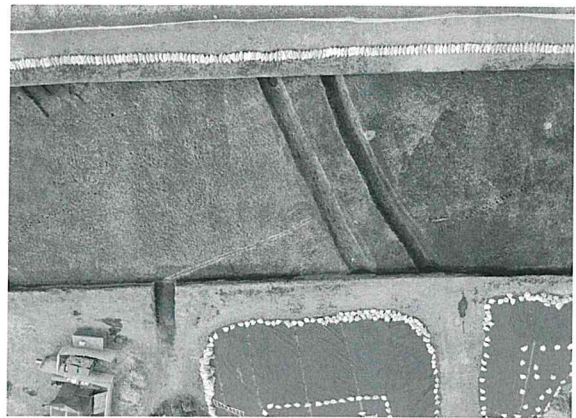
耕作痕検出状況 (西方から)



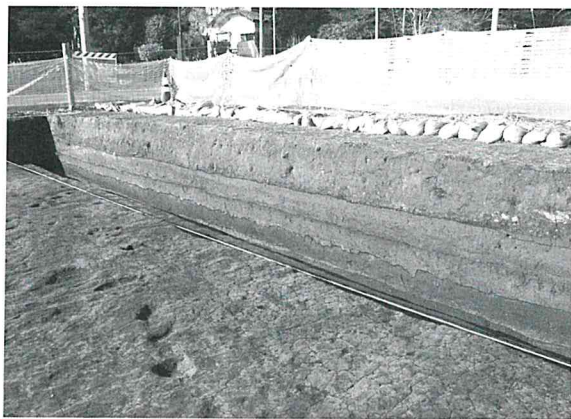
道路状遺構全体写真 (東方から)



SK1 全体写真 (東南から)



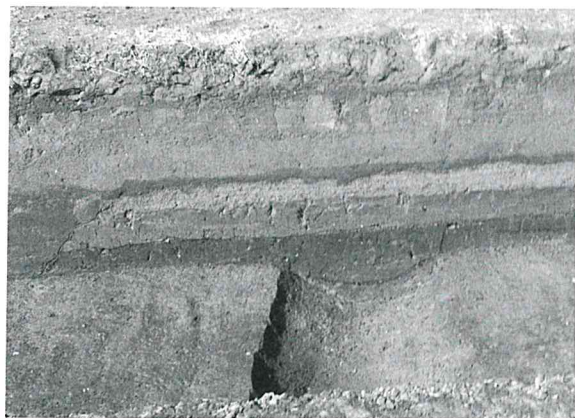
調査区遠景1 (中央部上空から)



調査区西壁断面 (北から)



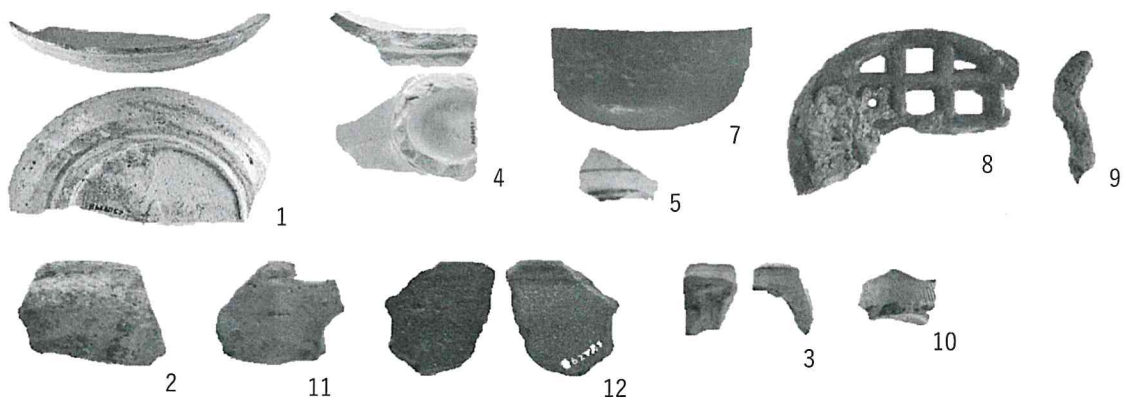
調査区遠景2 (東方上空から)



調査区西壁断面 (東方から)



調査区遠景3 (北方上空から)



出土遺物

# 報告書抄録

フリガナ	シバサキフジツカイセキサン
書名	柴崎富士塚遺跡3
副書名	店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第497集
編著者名	藤田 登
編集機関	株式会社飯塚組 〒370-3602 群馬県北群馬郡吉岡町大字大久保2279-2 TEL0279-54-2766
発行機関	株式会社飯塚組
発行年月日	令和5年7月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しばさきふじつかいせきさん 柴崎富士塚遺跡3	ぐんまけんたかさきししばさきまちあざ 群馬県高崎市柴崎町字 ひがしはら 723-1、字富士塚 あざふじつか 870-1 他	10202	862	36° 19' 06"	139° 03' 03"	20230119 ～ 20230317	720㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
柴崎富士塚遺跡3	生産域	奈良・平安時代 近代	水田 道路状遺構	土師器、近世陶器	

高崎市文化財調査報告書 第497集

## 柴崎富士塚遺跡3

—店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

令和5年7月24日 印刷

令和5年7月31日 発行

編集・発行／高崎市教育委員会  
群馬トヨベツト株式会社  
株式会社飯塚組

印刷／朝日印刷工業株式会社





# 写真図版





浅間山

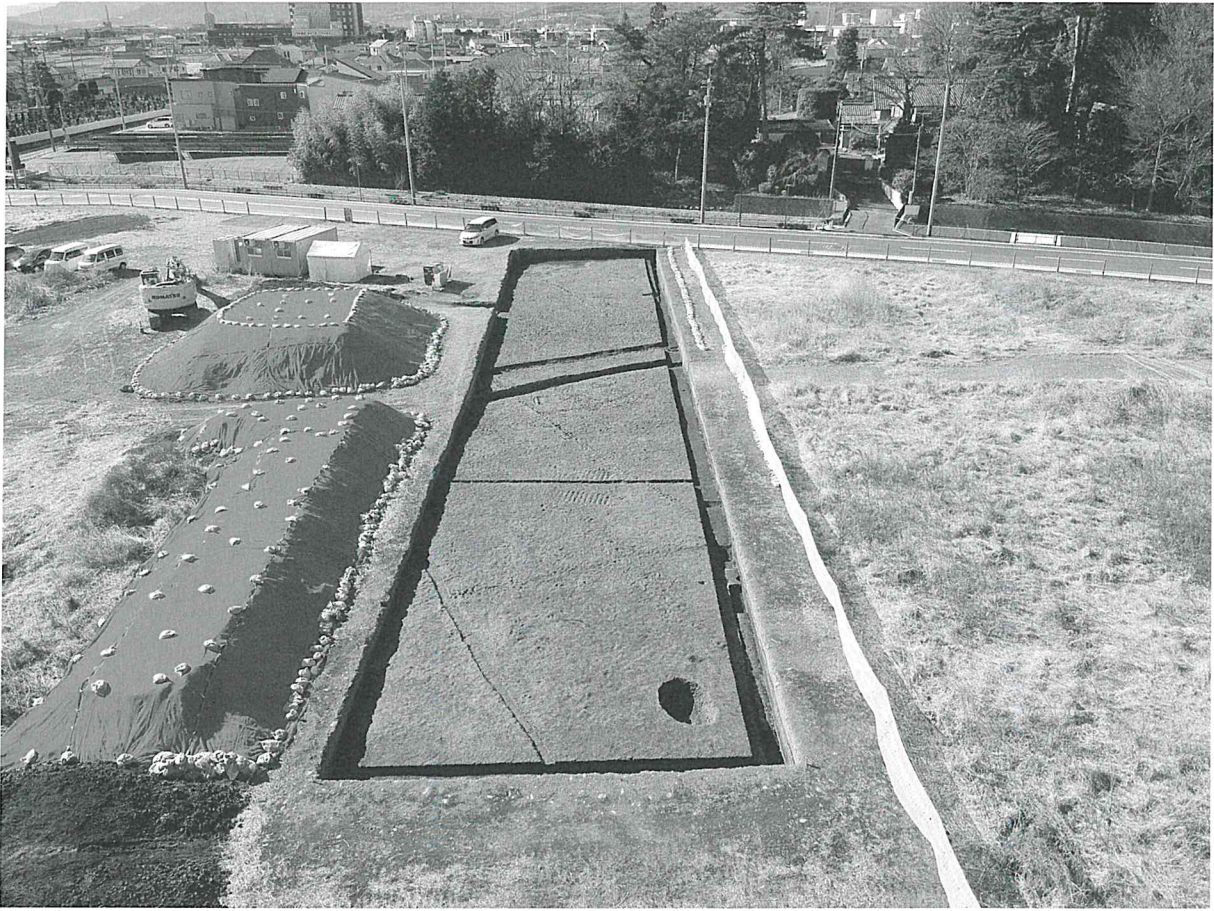


調査区遠景（東方上空から）

赤城山



調査区遠景（南方上空から）



調査区遠景（北方上空から）



調査区遠景（西方上空から）



環境整備（除草作業）



調査区盛土掘削 1



調査区設定（光波測量）



調査区盛土掘削 2



遺構検出作業 1



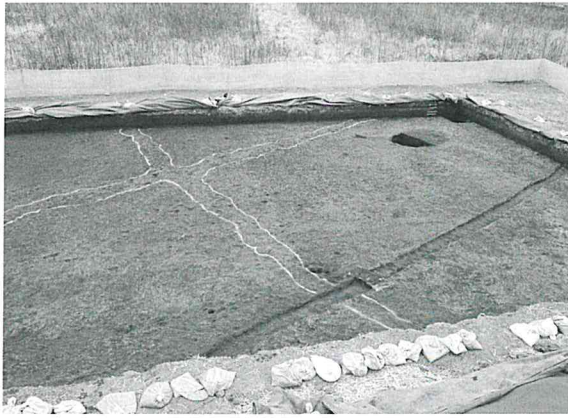
遺構確認作業 1



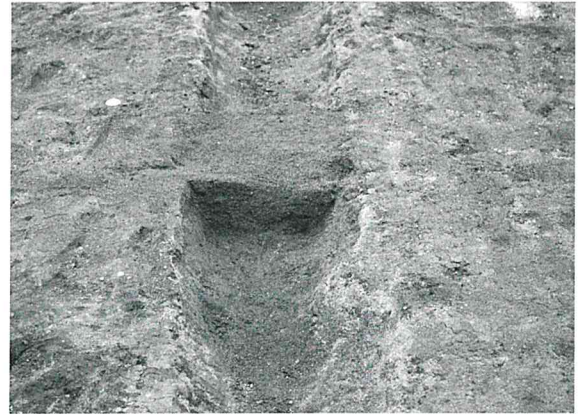
遺構検出作業 2



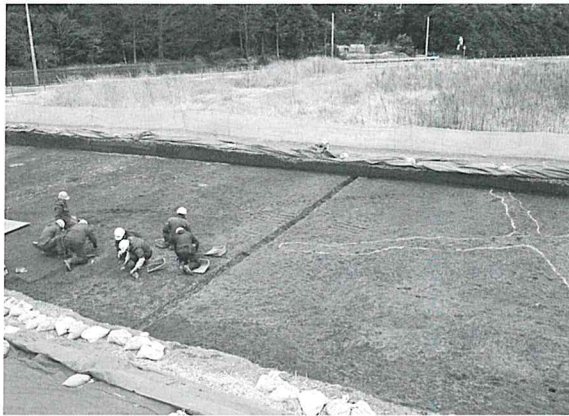
遺構確認作業 2



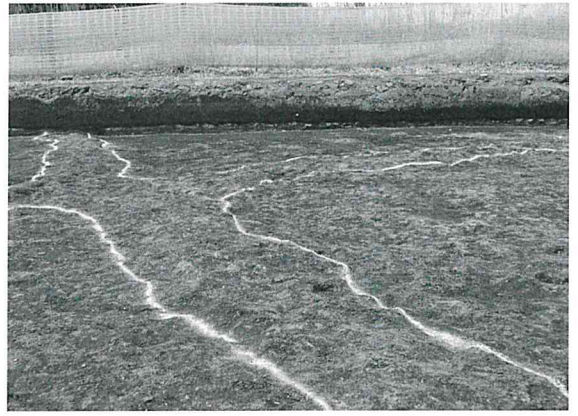
畦畔検出状況（東から）



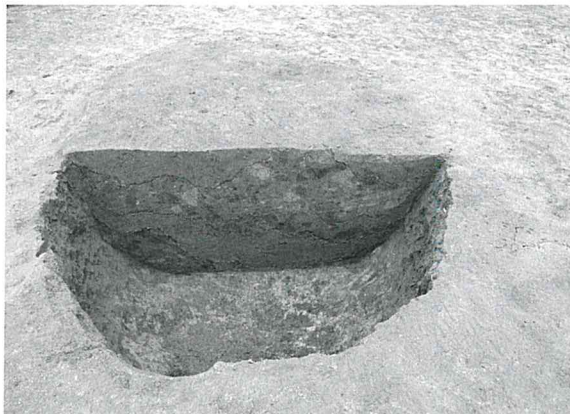
SD2断面（東から）



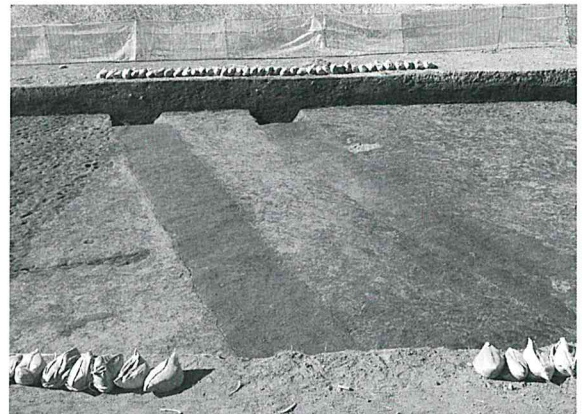
畦畔検出作業（東から）



畦畔検出状況（東南から）



SK1断面（南から）



道路状遺構検出状況（東から）



SD1断面（南から）



SD5断面（東から）